

パラオで巡視船・庁舎・係留施設の引渡し式典を開催

～ミクロネシア3国の海上保安能力強化支援プロジェクト～

2018年2月13日、パラオ共和国の海上警備・野生動物保護局において、日本財団および笹川平和財団の支援のもと、建造・建設が進められてきた「巡視船」「庁舎」「係留施設」の引渡し式典が行われた。

この引渡し式典には日本から日本財団の海野光行・常務理事をはじめ、笹川平和財団の村上強志・特任グループ長、海上保安庁の島田勘資・政務課長、当協会の牛島清・理事長、ニッポンマリタイムセンターの浅井俊隆・所長、水産エンジニアリングの高橋邦明・代表取締役、警固屋船渠の久留島匡繕・代表取締役社長、岩田地埵建設の新田良弘・取締役副社長執行役員ら関係者約30人が、パラオ共和国からは Tommy E. Remengesau, jr (トミー・レメンゲサウ) 大統領をはじめ、Raynold B. Oilouch 副大統領、IBEDUL (アイバドル) Yutaka Gibbons 大酋長、REKLAI (レクライ) Rephael Ngirmang 大酋長、Hokkons Baules 上院議長、Sabino Anastacio 下院議長ら同国政府関係者と山田俊之・在パラオ日本大使ら、各国の在パラオ外交官や領事など約120人が出席した。

式典は開会のお祈りから始まり、両国国旗行進および国歌の演奏、パラオの伝統的な詠唱が行われたのち、巡視船「KEDAM」による放水デモンストレーション、来賓紹介と進められ、IBEDUL Yutaka Gibbons 大酋長が開会のあいさつを述べた。

この後、Raynold B. Oilouch 副大統領が本プロジェクトの概要を説明し、日本



供与された巡視船「KEDAM」と係留施設（手前の3隻はこれまでに供与された小型パトロール艇）



供与された庁舎「Bai ra Bul」



引渡し式典は両国関係者が多数出席



放水デモンストレーションをする巡視船「KEDAM」

側を代表して日本財団の海野常務理事が「日本財団は近年、世界の海の保全に努めてまいりました。我々の海が直面する多様な挑戦に取り組むには、国境、制度、専門分野を越えた新しい地球規模の海洋体制が必要です。そして豊かな海を次世代につなげるためには、共に協力しグローバルなビジョンを発展させる必要があるのです。そのために民間である日本財団とパラオ政府が中心となり、連携強化を図り様々な関係者を巻き込みながら海の問題に取り組むモデルを広げていきたいと考えています。KEDAMの乗組員は日本での厳しい研修を乗り越えてきました。私は彼らのもとでKEDAMがパラオの海を守り、維持していくと信じています。日本財団はこれからもパラオと我々のパートナーシップを全力で支えていくことをお約束します」とコメント。

これに対しレメンゲウサ大統領からは「本日は笹川陽平会長の出席は叶いませんでしたが、海野光行常務理事にご出席いただき心から感謝いたします。今日はパラオにとって誇るべき日であり、公的機関と民間機関の友情とパートナーシップを誇るべき日でもあります。日本財団の貢献はとても大きく、今回の支援だけではなく、これまでも我々が必要としているときに傍で支えてくださいました。我々にとって海はすべてで、食料、経済、文化、社会であり、生きる糧なのです。しかし、現在パラオは、IUU（違法・無報告・無規制）漁船の問題に直面しています。この大きな問題に取り組むため本日の式典は大きな一歩となることでしょう。今を生きる我々と未来の世代のためにわが国の保護に取り組んでいかなければと思っています」と感謝の言葉が述べられた。

また、Hokkons Baules 上院議長および Sabino Anastacio 下院議長からは 2018 年 1 月に開催された第 10 期パラオ議会において、パラオの海洋保護と安全に効果的な支援と貢献をしたとして、日本財団および笹川平和財団に対し深い感謝の気持ちを表すため「A HOUSE JOINT RESOLUTION（両院共同決議）」を採択したとの報告があり、日本財団の海野常務理事に感謝状が贈呈された。

その後、建設された庁舎前で両国の代表者によるリボンカットとパラオ伝統のストーリーボードの除幕が行われ、式典は盛会のうちに終了し、式典後に巡視船・庁舎・係留施設の内覧が行われた。



日本財団の海野常務理事



パラオ共和国の
レメンゲウサ大統領



日本財団・笹川平和財団に対し「両院共同決議」の感謝状が贈呈された

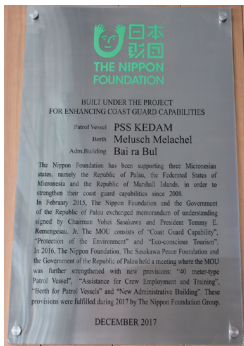




庁舎のエンタランスに飾られるストーリーボード



庁舎の正面には本プロジェクトにより建設されたことを記したプレートが設置されている



エンタランスに設置されている案内板

参加者に庁舎内を案内する当協会の竹内行広・研究統括本部部長（ミクロネシア3国担当）



庁舎内には日本からの専門家などが使用できる部屋も準備されている



写真右：係留施設と設置されたパネルおよびこれまでに供与された小型パトロール艇（左から「KABEKEL MTAL」「BUL」「EUATEL」）
写真下：巡視船「KEDAM」の見学の様子



レセプション

同日の夕刻からは PALAU ROYAL RESORT でレセプションが開催され、Raynold B. Oilouch 副大統領および当協会の牛島理事長が祝賀のあいさつを述べ、海上保安庁の島田政務課長が乾杯の発声を行った。

また、レセプションでは縁起物の鏡割りが両国の代表者により行われ、パラオ共和国に供与された巡視船、庁舎、係留施設がパラオ共和国の広大な EEZ（排他的経済水域）の安全・安心と海洋環境保護に貢献することを祈念した。



Raynold B. Oilouch 副大統領



当協会の牛島理事長



パラオ共和国の安全・安心な海を祈念して乾杯



両国の代表者による鏡割り